

IPMを取り入れたきゅうり病害虫防除の実証

令和5年度作成
(試験実施：令和3年度～)

試験ほ場の概要

地域：小鹿野町（般若地区）
品目：施設きゅうり

導入した資材等

- ・天敵農薬（スワルスキーカブリダニ、リモニカスカブリダニ）
- ・光反射防除資材（防虫ネット、防虫シート）

試験の目的・ねらい

施設きゅうり栽培において、天敵農薬及び防除資材を活用した防除体系による、アザミウマ類やコナジラミ類、それらが媒介するウイルス病（黄化えそ病及び退緑黄化病）の防除効果を実証する。

試験概要

(1) 耕種概要

	実証区	慣行区
面積	10a	10a
品種	ワントップ	ワントップ
定植日	8月5日	8月3日
光反射防虫ネット・防虫シートの設置	7月4日～6日	—
天敵農薬の放飼	8月22日	—
管理方法	選択性農薬の利用	農家慣行

(2) 調査概要

- ①ハウス内外に粘着板（黄色・青色）を設置し、捕虫した害虫数を計測。
- ②各区ハウス内の30株において、天敵農薬の定着状況、害虫及びウイルス病の発生状況を調査。
- ③薬剤費と散布に係る労働コストを調査。



側面に防虫ネット、ハウス周辺に防虫シートを設置

結果概要

- ・ハウス内では、実証区、慣行区ともにアザミウマ類、コナジラミ類が発生したが、劇的な増加は確認されず、粘着トラップによる捕殺数もハウス外に比べ少なかった。
- ・天敵農薬は、調査期間中は定着が確認され、密度も維持することができた。
- ・慣行区では10月頃から退緑黄化病の発病が発生したが、実証区ではウイルス病の被害は確認されなかった。
- ・殺虫剤の散布時間が削減され、農薬使用回数は慣行区と比較し2～3割減となった。

生産者コメント

導入に際しては「天敵農薬代に見合った効果があるのか」「使える農薬が制限される」等の不安があった。

しかし、実際に導入してみると、効果的に病虫害防除ができたうえに、化学農薬の散布回数が減り、整枝、収穫といった管理作業に充てる時間を増やすことができた。

今後もIPMを取り入れた防除体系を継続していきたい。



天敵農薬を放飼する生産者

問合せ先

秩父農林振興センター

農業支援部 技術普及担当 電話：0494-25-1310

管理部 地域支援担当 電話：0494-24-7211